

令和3年(2021年度)
事業計画

学校法人和風会
多摩リハビリテーション学院専門学校

目 次

①学校法人和風会

概 要

沿 革

名称・所在地

役員・評議員

学校関係者評価委員

和敬清寂委員

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

各種委員会

各学科

(1)作業療法学科

(2)理学療法学科

(3)言語聴覚学科

(4)介護人材養成分野

学校法人和風会の概要

現在、我が国の保健・医療・福祉・教育を取り巻く状況は急速に変化しており、各方面ではさまざまな構造改革が進んでいます。このような状況の中で私たちが取り組む必要のある課題は山積しており、設立母体である医療法人社団和風会では、東京都西多摩地区、埼玉県西部地区を中心に地域医療を展開し、急性期から慢性期の医療だけでなく自立支援できるよう早期からリハビリテーション事業に着手して参りました。さらに予防医学を基本としたリハビリテーションに着目し生活習慣病の運動療法を取り入れた施設を開設、展開し、リハビリテーションを核に先駆的役割を果たしております。

その様な状況下、医療法人社団和風会の中で人材養成を担当する前身の多摩リハビリテーション学院では、リハビリテーション専門職の人材育成が急務であることを感じ、平成8年4月に作業療法士養成施設（昼間部4年制）開設を皮切りに、翌平成9年には理学療法学科（昼間部4年制）、平成10年には言語療法学科（夜間部4年制）、平成15年に言語聴覚学科（大卒者2年課程）を年々学科増設し、23年間にわたり地域の医療、福祉を担う卒業生を2,000人以上輩出して参りました。

また高齢化の一方で、18歳人口の減少等による学校の運営を取り巻く環境は年々厳しさを増す中、地域及び社会情勢の変化に的確に応じ、学校運営のさらなる発展を目指し、質の高い学生確保や経営の基盤強化をはかるべく、平成31年4月に学校法人和風会を設立し、多摩リハビリテーション学院専門学校として東京都及び青梅市より認可を頂きました。

多摩リハビリテーション学院専門学校では、今後益々進む高齢化の中で、引き続き次世代の質の高いリハビリテーション医療技術者の養成と並行し、病院、施設等では福祉人材不足が懸念されており、新たに外国人も含めた福祉の分野で活躍する技術者の養成を準備し、令和3年(2021年度)の事業計画を策定致します。

医療法人社団和風会 多摩リハビリテーション学院(平成 8 年開設) ⇒
学校法人和風会 多摩リハビリテーション学院専門学校(平成 31 年 4 月認可)

沿 革

■平成 8 年 4 月

- ・多摩リハビリテーション学院（青梅市根ヶ布）開校
- ・作業療法学科（昼間 4 年過程）開設（併設施設デイケアセンター「パーク」開設）

■平成 9 年 4 月

- ・理学療法学科（昼間 4 年過程）開設
- ・健康福祉学科（夜間 2 年過程）開設

■平成 10 年 4 月

- ・言語療法学科（夜間 4 年過程）開設

■平成 11 年 3 月

- ・健康福祉学科（夜間 2 年過程）1 期生卒業

■平成 11 年 4 月

- ・健康福祉学科 昼間に移行

■平成 12 年 3 月

- ・作業療法学科（昼間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 13 年 3 月

- ・理学療法学科（昼間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 14 年 3 月

- ・言語療法学科（夜間 4 年過程）1 期生卒業

■平成 14 年 4 月

- ・健康福祉学科改組の為、募集停止

■平成 15 年 4 月（併設施設デイサービスセンター「パーク」に変更）

■平成 16 年 4 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）開設
- ・音楽療法研究科（昼間 2 年過程）開設
- ・ホームヘルパー 2 級、1 級 事業開始

■平成 18 年 3 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）1 期生卒業
- ・音楽療法研究科（昼間 2 年過程）1 期生卒業

■平成 18 年 4 月

- ・理学療法学科(夜間 2 年過程※作業療法士／見込含 対象)開設

■平成 19 年 4 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）定員 20 名→30 名に定員増

■平成 20 年 3 月

- ・理学療法学科（夜間 2 年過程※作業療法士／見込含 対象）廃止

■平成 20 年 4 月

- ・作業療法学科昼間部 4 年課程→3 年課程
- ・言語療法学科（夜間 4 年課程）学生募集停止

■平成 21 年 4 月

- ・理学療法学科昼間部 4 年課程→3 年課程

■平成 22 年 3 月

- ・音楽療法研究科（昼間 2 年過程）廃止

■平成 23 年 3 月

- ・言語療法学科（夜間 4 年過程）廃止
- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）定員 30 名→35 名に定員増

■平成 24 年 4 月

- ・言語聴覚学科（昼間※大卒者対象）定員 35 名→40 名に定員増

■平成 25 年 8 月

- ・ホームヘルパー 2 級（法制度改定により）→
東京都介護職員初任者研修事業者の指定

■平成 29 年 5 月

- ・介護職員実務者研修講座（通信）の指定

■平成 31 年 4 月

- ・学校法人和風会 設立認可（東京都）
- ・専修学校 多摩リハビリテーション学院専門学校認可（青梅市）

■令和元年 5 月

- ・介護職員実務者研修講座（通信）の指定（東京都）

■令和元年 8 月

- ・生活援助従事者研修課程（通学）の指定（東京都）

■令和元年 9 月

- ・介護職員初任者研修課程（通学）の指定（東京都）
- ・高等教育の修学支援（高等教育無償化）制度対象校認定（文部科学省）

■令和 4 年 4 月

- ・介護福祉学科（昼間 2 年過程）開設 認可申請中

名称・所在地

法人名	学校法人和風会
学校名	多摩リハビリテーション学院専門学校
法人・学校住所	東京都青梅市根ヶ布1-642-1

役員及び評議員

理事長	理事長	石田 信彦	評議委員	評議員	清水 誠
理事・監事	理事	数野 國明		評議員	岩戸 徹
	理事	石田 哲郎		評議員	木村 欣司
	理事	林 義巳		評議員	永田 聡邦
	理事	黒田 英寿		評議員	高木 博之
	理事	小澤 達也		評議員	加藤 哲禎
	理事	田中 勇次郎		評議員	木村 洋治
	監事	原山 陽一		評議員	大山 京子
	監事	田中 康雄		評議員	池田 隆純
					評議員
				評議員	奥山 浩太
				評議員	松井 充
				評議員	西片 裕
				評議員	横濱 秀征
				評議員	成塚 修一
				評議員	鈴木 健二郎
				評議員	林 義巳

学校関係者評価委員会

委員長	池田 隆純				
委員	鈴木 康雄	奥山 浩太	松井 充	高木 博之	加藤 哲禎
	人見 太一				

和敬清寂委員会(教職員接遇向上及び各種ハラスメント対策)

委員長	林 義巳				
委員	岩戸 徹	清水 誠	佐藤 譲司	木村 欣司	黒田 英寿
	景山 雄介				

②多摩リハビリテーション学院専門学校

教職員

学院長・副学院長・事務長

学院長	石田信彦
副学院長	林 義巳
事務長	黒田英寿
教務部長	岩戸 徹

作業療法学科

学科長	清水 誠	作業療法士
主任	中村 晃一	作業療法士
副主任	横濱 秀征	作業療法士
教員	庄司 麻美	作業療法士
教員	鎌田 小百合	作業療法士
教員	岩田 一鷹	作業療法士

理学療法学科

学科長	佐藤 譲司	理学療法士
主任	成塚 修一	理学療法士
教員	岩井 琢也	理学療法士
教員	鈴木 恒	理学療法士
教員	小嶋 陽香	理学療法士
教員	西井 琢馬	理学療法士

言語聴覚学科

学科長	木村 欣司	言語聴覚士
主任	西片 裕	言語聴覚士
教員	鈴木 真生	言語聴覚士
教員	山崎 暁	言語聴覚士

介護福祉学科設置準備教員

教員	鈴木 健二郎	介護福祉士
教員	中田 史宏	看護師
教員	山下 直子	介護福祉士
主任教員	竹内 克	社会福祉士 介護福祉士

カウンセラー・心理学担当

主任	藤枝 幹大	臨床心理士
----	-------	-------

各種委員会委員

◎広報委員会

委員長	景山 雄介				
委員	師岡 静枝	中村 晃一	岩田 一鷹	岩戸 徹	成塚 修一
	木村 欣司	山崎 暁	鈴木 健二郎	竹内 克	大野 幸代

◎学生生活向上委員会

委員長	佐藤 讓司				
委員	清水 誠	藤枝 幹大	山崎 暁	中田 史宏	竹内 克
	景山 雄介	三浦 健	大野 幸代	黒田 英寿	

◎就職委員会

委員長	鈴木 真生				
委員	鎌田 小百合	岩井 琢也	成塚 修一	山下 直子	竹内 克
	石黒 真也	黒田 英寿			

◎校友会委員会

委員長	西片 裕			監査	黒田 英寿
委員	横濱 秀征	小嶋 陽香	鈴木 健二郎	榊田 史江	景山 雄介

◎学校評価委員会

委員長	石田 信彦				
委員	林 義巳	黒田 英寿	岩戸 徹	清水 誠	佐藤 讓司
	木村 欣司	鈴木 健二郎			

◎教育課程編成委員会

委員長	林 義巳	外部委員	池田 隆純		
委員	清水 誠	岩戸 徹	木村 欣司	鈴木 健二郎	中村 晃一
	佐藤 讓司	西片 裕	鈴木 健二郎	竹内 克	景山 雄介

◎情報システム委員会

委員長	師岡 静枝		
委員	教務部長	各学科長	各種委員会委員長
	林 義巳	黒田 英寿	

◎医療法人社団和風会 学術委員会

委員長	鈴木 真生	
委員	庄司 麻美	鈴木 恒

在校生

学科	学年	定員	昼/夜	教室	担任
作業療法学科	1学年	40	昼	南303	中村・岩田
	2学年	40	昼	南304	清水・庄司
	3学年	40	昼	北302	鎌田・横濱
理学療法学科	1学年	40	昼	南301	佐藤・鈴木恒
	2学年	40	昼	南302	西井・岩井
	3学年	40	昼	北301	岩戸・成塚
言語聴覚学科	1学年	40	昼	北401	全学科教員
	2学年	40	昼	北402	全学科教員

学 科	作業療法学科
入学定員充足	<p>新年度に向け、他学科と共に毎身体験会を実施し、生徒獲得に努めていきます。体験会以外にも、個別見学を積極的に受け入れて、時間をかけ丁寧に説明をしています。その他、コロナ禍という事もありネットを通じての職業説明、理解を伝えていければと考えています。</p>
教育(カリキュラム・学生サポート等)	<p>3年間の流れを理解してもらえようホームルームなどの時間を利用し授業の流れ、単位の取得方法などを伝えています。1年間の前期、後期の個別面談はもちろん、定期試験後や再試験前の補習指導など途中の退学者を出さないように心がけています。</p> <p>作業療法学科では、他学科に先駆けOSCE（客観的臨床能力試験）の導入も行っており、コロナ禍で実習に出ることができない学生への 能力向上、モチベーションの向上を目指しております。学生サポートでは、学科教員それぞれが「OTクラブ」をもって学生サポートを行ってききましたが、コロナの影響により活動が行えていない状況になっていますが、状況が好転次第再開を目指していく予定です。</p>
国家試験対策	<p>国家試験対策は、1年次から業者試験を用いて全国レベルで自分がどの位の位置にいるかを確認し、2年後の国試につながるように指導しています。特に1年次に習う解剖、生理、運動学の授業では、国家試験に出た問題なども紹介し自己学習を促しております。</p> <p>2年次は、あえて業者試験の実施はしていませんが、専門科目を中心に国家試験問題を導入し説明・理解をしてもらい、その上での実技展開を行っています。</p> <p>3年次では国試への最終段階となり、授業の中でも解剖、生理、運動学などを中心とした基礎分野演習、専門科目の知識・技術などの専門分野演習を学科教員全員で分担し修得レベルの向上を目指しています。</p>
就職支援	<p>3年次の就職ガイダンスが昨年は行えませんでした。今年も昨年同様にオンデマンドによる就職情報の発信や募集をしている病院の作業療法士に來校してもらい就職説明を行ってもらう予定です。3年の担任や就職委員が試験官となり面接練習も行いネット面接にも対応していく予定です。</p>
校友会(同窓会)との連携	<p>コロナ禍の校友会の研修が、現状厳しい状況で共催を含め全て停止しています。状況に応じた (on lineでの) 開催等を考慮していきたいと思ひます。</p>
その他	<p>1年の入学時には父兄を対象とした説明会を開催し、入学後の流れ、国試の状況（合格率）、就職状況、実習等につき説明しています。学科教員はこの時全員参加し、父兄への顔見せをすることで保護者との情報交換に繋がるよう心掛けています。学生面談は全員に、成績状況により学生の面談と併せて父兄への連絡を行い、希望により三者面談も実施しています。特に出席状況や気になる行動については、学科会議にかけ保護者への連絡を頻回に行っています。</p>

学 科	理学療法学科
入学定員充足	今年度入学定員に達しております。入学定員に向け毎月体験会を実施しております。体験会参加者内希望者には系列の医療施設への見学も行っております。また、個別見学（オンラインおよび電話など）も対応しております。希望があれば各学校の模擬授業も参加して頂き他職種理解にも努めております。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	カリキュラムは3年課程です。1年次は専門基礎、2年次は理学療法の専門科目を中心に学習します。3年次には臨床実習と理学療法士になるための学習を総復習しております。各学年担任制で各学年2名ずつ配置しております。実技科目は複数の教員が関わり、学生に模倣を示しながら実施しております。
国家試験対策	3年次を中心に国家試験対策を行っております。基礎的な科目となる専門基礎分野演習、理学療法の専門科目となる専門分野演習、そして実地問題の対策としての総合分野演習を行っております。国家試験の合格率は全国平均を大きく上回る結果となっております。
就職支援	当学院において毎年春に就職ガイダンス、秋に就職説明会を実施しております。就職ガイダンスでは履歴書の書き方や面接の仕方等の指導を行っております。就職説明会では実習地を中心に全国から各施設の方々にお集まり頂き、施設の情報を提供頂いております。また、希望者には専任教員が履歴書のチェックや面接練習を随時行っております。
校友会(同窓会)との連携	年2～3回外部講師に講演等を行って頂いております。外部講師は全国でも有名な先生にお越し頂き、お話を頂いております。今年度は臨床に実践的な内容でした。
その他	入学直後、定期試験以外にも随時面談等にて学生やご家族と話し合いを持てる機会を設けております。学習面や進路のことで悩んだ時に対応できる体制です。

学 科	言語聴覚学科
入学定員充足	言語聴覚学科では、3学科共通で行っている体験会、個別見学、関連病院の臨床見学を行っています。また、社会人入学者も多いことから、個別見学者の受付時間の延長、SNSおよびオンライン相談と入学希望者の要望に合わせ、行っています。さらに、本学の認知度向上のみならず、言語聴覚士の認知度向上を目的とし、本学教員が近隣地域の自治体や病院・施設に訪問し、介護予防講座・研修等を行っています。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	言語聴覚学科のカリキュラムは、4年制大学卒業生対象とした2年課程であり、2年間を通じ言語聴覚療法に必要な専門基礎分野、専門分野を学びます。特に専門分野では、言語聴覚療法に必要な検査手技や訓練手技に関して、常勤講師はもちろん専門性に長けた非常勤講師が協力し、実技演習を取り入れ学生の理解を深めるよう指導しています。医療施設で行われる実習に関しては、1年次では3週間の評価実習、2年次では合計12週間の臨床実習を実施しています。また、学生サポートとして、定期的な学生面談を取り入れ、学習上の不安や疑問に関して指導や助言を行っています。
国家試験対策	言語聴覚学科の国家試験合格率は、毎年、全国合格率を上回る水準を保ち続けています。昨年度より、個別支援型の対策を取っており、多種多様な学生の質に合わせて指導を行うようにしています。内容として、1年次から専門基礎分野・専門分野を問わず、各科目の中で国家試験問題を意識した授業を展開しています。また、2年次の4月には最新の国家試験問題を学生に解かせ学生の実力を分析したうえで、2年生の2月に実施される国家試験当日まで、専任教員全員が学生を個別サポートしています。
就職支援	言語聴覚学科では、就職ガイダンスおよび就職説明会を行っています。就職ガイダンスでは、履歴書の書き方や就職面接試験のポイントを指導しています。就職説明会では、医療施設・福祉施設の方々にお越しいただき、学生が直接、就職担当の方と面談できる場を提供しています。また、専任教員のネットワークを活用し、学生個々が希望する求人情報の紹介も行っています。
校友会(同窓会)との連携	言語聴覚学科では、校友会と連携し臨床現場で役立つ知識・技術に関する勉強会や講演会を年に2～3回実施しています。また、本年度より、若年経験者向けの勉強会や講演会を追加し、卒後教育により力を入れることとしています。対象者は卒業生が中心ですが、在学生も参加が可能であり、在学生にとっても臨床現場の雰囲気をつかむ場になっています。
その他	言語聴覚学科の学生は、2年間という非常に短期間で言語聴覚士に必要な知識と技術を学びます。時間が限られるからこそ、学習上の疑問や不安は早急に解決する必要があります。したがって、学生がいつでも気軽に教員と相談できる体制を整えています。また、当学科は多くの病院・施設様、企業等よりご協力をいただきながら、学生へ最新の実務知識、技術、技能を提供しています。そのことから、職業実践専門課程の認可申請を行う予定です。

学 科	介護福祉学科
入学定員充足	介護福祉学科では、他学科と共に体験会、個別見学、高校訪問を実施します。また、介護福祉および本学の認知度向上を目的とし、近隣公立高等学校において市民講師として授業を担当します。さらに近隣自治体が主催する、介護従事者養成研修講師を受託し、参加者やその家族への認知度を高めます。留学生の受け入れを行うために、近隣日本語学校との連携も継続していきます。今後、長期高度人材育成訓練（東京都委託訓練）にも対応し、訓練生が入学できる態勢づくりを行います。
教育(カリキュラム・学生サポート等)	介護福祉学科では、1年次に介護に必要な基礎的知識と技術を習得し、施設実習を通じて知識と現場の統合を行います。2年次には医学的であり専門的な介護の知識を学び、根拠を基にした理解を深めます。他学科の教員が授業を担当する科目もあり連携教育も実施致します。学生サポートとして入学時から学生一人ひとりのキャリア形成が支援できるように個別面談を重視します。留学生に対しては学年を超えた交流や地域と交流できるような取り組みを行います。
国家試験対策	国家試験対策として、1年次には学習の基礎となる「基礎学力向上講座」を学び、2年次には国家試験対策として特化した科目「総合介護福祉論」を学びます。同時に模擬試験も実施し、苦手部分を克服できるよう学習方法を個別に検討していきます。
就職支援	特別講座としてマナー講座を行い、基礎的なビジネスマナーを習得し就職面接などに役立てます。2年時には就職ガイダンス、10月中旬には実習地を中心とした施設関係者をお招きして、就職説明会を実施します。介護福祉士サポーター制度を利用する学生に関しては入学時からサポーター先施設でアルバイトをすることで、就職先と早い段階でつながることが出来、就職時も安心して就職することができます。
校友会(同窓会)との連携	介護福祉学科開設後は今までつながりが薄くなっていた旧健康福祉学科の卒業生との連携を構築できるようにいたします。入学者の斡旋の依頼や実習、就職先としての連携を図るようにしていきます。
その他	多種多様な学生が集まることが想定されます。各学年で随時個別面談を行い、学習状況だけでなく、生活状況も把握していきます。必要があれば、保護者との連絡や面談も実施していきます。学科教員全員が学生全員の状況を把握し、連携を取りながら問題解決をしていきます。